

第3回大分市教育ビジョン検討委員会 会議要旨

日時：令和元年10月24日（木）15:00～17:00

場所：大分市役所本庁舎8階大会議室

○出席委員10名、欠席委員なし

次 第

(1) 開会

(2) 議事

基本計画の検討2

① 基本方針3「社会教育の推進と生涯学習の振興」

② 基本方針4「個性豊かな文化・芸術の創造と発信」

③ 基本方針6「人権を尊重する社会づくりの推進」

④その他

〈主な意見・質問等〉

委員	おおいたナイトスクールは、いつ、どこで、どのように、どんなかたちで実施されているのか。
事務局	植田公民館では、火曜日に19時から英語、20時から国語。コンパルホールでは、水曜日に19時から英語、20時から国語。鶴崎公民館では、木曜日に19時からふるさと知ろう科、20時から数学。週に3日間実施している。
委員	受講者はどのくらいいるのか。
事務局	29年度は、植田公民館の英語が45名、国語が25名。コンパルホールが合計で54名。鶴崎公民館が合計で68名である。
委員	満足度を尋ねることには意味があると思うが、かなり漠然としたものであるので、何をもちて満足度とするのかを「注」で書き込むと分かりやすいと思う。
事務局	年度末に、満足・やや満足・普通・やや不満・不満の5項目で尋ねている。不満について、どの点で不満なのかということのを来年の事業に生かしていきたい。
委員	ナイトスクールについて、3カ所で曜日を変えているのは、3カ所ともに行く受講生がいるからではないかと思うが、そういった人は何人いるのか。
事務局	複数の場所で受講している人はいない。
委員	全国的に夜間中学の話題があるが、大分市でのニーズということも含めてナイトスクールは素晴らしい取組だと思う。これからも続けて欲しい。

委員	「家庭の日推進事業に取り組む地区数」の基準値が5地区で、2024年度の目標値が13地区、また「地区公民館におけるボランティア養成講座の実施回数」は基準値が73回で、2024年度の目標値が85回であるが、目標設定の根拠は何か。
事務局	「家庭の日推進事業に取り組む地区数」については、大分市の全ての地区で「家庭の日推進事業」に取り組むことにより大分市全体で「家庭の日」を推進していきたいと考えている。13は全地区数である。「地区公民館におけるボランティア養成講座の実施回数」については、年間2回増やす目標としたところである。
委員	全体の地区数を知らないため意味が分かりにくい。全ての地区で実施したいという文言を入れると分かりやすいと思う。
委員	全13地区ということだが、1地区が2回実施した場合にはどうなるのか。
事務局	取り組む地区数であるので、2回でも1地区というカウントになる。
委員	全部で13地区であるならば、2024年度のところを「全13地区」とすると分かりやすい。
事務局	そのように修正する。
委員	「絵本の広場」について、司書や図書館に関わる人の研修はどのように実施しているか。
事務局	図書館と「絵本の広場」の読み聞かせボランティアは必ずしも同じではない。「絵本の広場」の読み聞かせボランティアについては、託児ボランティアや読み聞かせボランティアの養成等を行っている方が携わるケースが多い。
委員	読み聞かせにアニメーションという手法があるが、鹿児島市では、フランスの図書館の方を招いて司書や関係者に対する研修を実施したと聞いている。そのような研修が含まれているのかと思い尋ねた。
事務局	いわゆる正規職員が読み聞かせに携わることはない。一般市民の方がボランティア養成講座を通じて携わっていることがほとんどである。どちらかから講師を招いての研修はできていないが、講師を選定した上で養成講座を実施している。
委員	読み聞かせは、本や絵本に親しんでもらうための取組である。いろいろなやり方があるので、研究してボランティアの方に情報提供していただきたい。ボランティア研修については、ボランティアの方自身の生涯学習になるので、とても良いことだと感じている。

委員	<p>「地域における子どもの健全育成」の現状及び課題の部分で、「育児不安を抱えながら」とあり、「このため」がきて「社会体験や自然体験」の話へつながっていくが、「社会体験や自然体験」で「育児不安」がどう解消されるのか。「このため」という接続詞は少し強引すぎると感じる。</p>
事務局	<p>核家族の増加や地域とのつながりの希薄化などを背景とした「育児不安」ということで、「ふれあい活動等を通じて地域の連帯感を育むことが重要」と結びつけたが、確かに「このため」という言葉は少し唐突に感じるので検討する。</p>
委員	<p>子ども会に加入する子どもが少なくなっているという現状をどう捉えているか。それを踏まえて、社会教育、地域の子どもたちの活動の場である子ども会をどう捉えているか。</p>
事務局	<p>子ども会の存続については、子ども会活動の内容を充実し、活発にしていくことが必要であると考えます。子ども会の活性化をねらいとして、新しくリーダーになった子どもたち、子どもたちの指導者になった方々に「子ども会リーダー研修会」「子ども会育成指導者研修会」を実施している。</p>
委員	<p>今、実際の子ども会の活動は、どのようなものが主な活動か。</p>
事務局	<p>子ども会は、どちらかという自治会や地区で組織された任意の団体であるので、活動の内容については正確には言えないが、新入生の歓迎会、クリスマスのお楽しみ会、廃品回収などが行われていると聞いている。</p>
委員	<p>子ども会の充実に向けてはどのようなアイデアがあるのか。</p>
委員	<p>校区全体のまちづくりとして、ウォーキングであったり多世代交流会であったり餅つき大会をしている地区がある。そのような活動に子ども会の委員さんに参加してもらうことで活動が活発になるのではないかと思います。</p>
委員	<p>以前から子ども会活動は大変であり、子どもが少なくなっている時代にリーダーシップをもって保護者が頑張るといのはすごく大変だと思う。活動すること自体ではなく、バス旅行などの体験は、大分の良い思い出を作ることにつながると思うので、そのような視点からも子ども会活動を支援して欲しい。活動に参加する家庭が少なくなっているが、1回の参加でも価値があると感じる。</p>
事務局	<p>子ども会に加入する子どもが少なくなっていく原因の一つに、保護者の負担感があると思う。研修の中で、まずはこのとおりにやってみるというハンドブックを提示し、保護者の負担感の軽減を図ることが子ども会の存続にも大きくつながっていくのではないかと考えている。今後も研修等をしていきたい。</p>
委員	<p>社会教育団体等の連携強化等について、地域と青少年健全育成連絡協議会や青少年補導員連絡協議会との連携は出来上がっている。連携はできているとい</p>

	<p>う明記をした方が良いのではないか。また、連携を「継続」していくという文言をいれていただきたい。</p>
事務局	<p>社会教育課としても中央補導活動には力を入れて取り組んでおり、夜間補導活動についても大切にしている。文言については精査したい。</p>
委員	<p>「所蔵作品・作家の解説整備率」とは、具体的に何を指しているのか。</p>
事務局	<p>コレクション展で展示する作品総数のうち、解説を加えた点数のことを整備率としている。</p>
委員	<p>企画をして展示する時に、すぐにその作品については解説を添付できるという意味か。</p>
事務局	<p>いつでも付けられる状態にした作品数ということではなく、年間を通じて実際に何点に解説を付けた上で展示したかということである。</p>
委員	<p>整備率ではなく、もう少しいい言葉がある気がするのでご検討いただくか、注釈をつけることをご検討いただきたい。</p>
事務局	<p>検討する。</p>
委員	<p>子ども向けの解説もぜひお願いしたい。</p>
委員	<p>美術の振興と発信で関係する機関と連携するとあるが、県立芸術文化短期大学も含まれるのか。</p>
事務局	<p>含まれる。また、県立芸術文化短期大学とは、現状でも様々なかたちで連携している。</p>
委員	<p>県立芸術文化短期大学が公開講座を実施していると承知しているが、例えば、大学の先生が学校の子どもたちに音楽や絵画の指導をするというようなイベントを企画するようなことはないか。</p>
事務局	<p>過去の展覧会においては、大学の先生が講師となり美術館でワークショップを開催したこともある。現在の磯崎新展のデザインにおいても大学の先生にご協力いただき、展示作業等で学生にもご協力をいただいた。今後もさらに連携を発展させていきたいと考えている。</p>
委員	<p>県立芸術文化短期大学という他県にはない、特徴的な大学を生かすということも大事だと思う。</p>
事務局	<p>ご意見を今後の活動に反映させていく。</p>

委員	今回のラグビーワールドカップにおいて、芸術文化短期大学の学生に指導してもらい、市内7校の中学校が、今、駅前に飾っているモザイクアートの作成を行った。
委員	先生方はアートプラザで個展も開いている。また、県立の大学であるので、地域ふれあいアート講座として、過疎地の小中学校で美術の指導を行うという活動もしている。過疎地だけでなく、大分市内の小中学校でもできると思う。
委員	指標について、利用者数を増やすことが大きな課題であり、それを目標に掲げざるを得ないということは承知しているが、美術館入館者数が50万人、アートプラザ入館者数が18万人という目標設定に関して実際の見込みはどうか。
事務局	第I期計画に引き続き50万人とした。過去には70万人という年もあった。現在、40万人を超えるのがやっとというところではあるが、県立美術館が総入館者数50万人を掲げていることもあり、50万人という設定とした。
委員	市美術館からの大分市を一望できる眺望は素晴らしい。美術館観覧後に少し着席してくつろげるような場所があるといいと思う。
事務局	市美術館の展望台は道順が難しいところにあるので、大分市が一望できる場所への分かりやすい道順案内を検討する。
委員	県立芸術文化短期大学がローテーションで小学校をまわり、演奏をしてくれている。非常に素晴らしく、地域の皆さんが体育館に行くきっかけともなっているので、ずっと続けて欲しい。
委員	続ける予定である。
委員	大友氏館跡への来場者数について、基準値8,690人から2024年度は24,000人という目標が設定されているが、根拠と見込みは。
事務局	8,690人は、昨年度完成した南蛮BVNGO交流館の9月30日から3月31日までの入館者数である。24,000人については、来年度完成する庭園と南蛮BVNGO交流館の入場者数を足したものであり、月に2,000人を目標としている。目標の達成はできるものと考えている。
委員	庭園の入場者数はどのようにカウントするのか。また、入園料は有料か。
事務局	入口を設置して、カウンターを付ける計画である。入園料は無料である。
委員	歴史的な遺産を生かした活動を通じて、観光客による経済効果がもたらされているという現象がある。NHKの大河ドラマを誘致する考えはあるか。また、イニセンティブとして目を引くような活動をする計画があるか。

事務局	大河ドラマの件に関しては所管が観光課であり、民間で組織された大河ドラマ推進協議会が大友宗麟公を大河ドラマにするため様々な活動をしている。大友館は大友宗麟の時代の一番の舞台ということになるので、大河ドラマの実現ということとも連携しながらいろいろな施策をやっていききたい。また、大友氏遺跡の基本計画の見直しに当たっては、歴史観光の視点からも検討したい。
委員	南蛮B V N G O交流館と大友氏館跡の庭園の開館時間はどうなっているか。
事務局	南蛮B V N G O交流館の開館時間は、9時から17時までであり、入館を16時半までとしている。庭園については、まだ検討中ではあるが、交流館と同様と考えている。
委員	来場者数の向上を目指すため、金曜日は開館時間を延長するなど、開館時間の工夫をしてはどうか。
事務局	今年、交流館においては、お盆時期に夜8時までの怪談話を開催した。今後もイベントの折などに開館時間の工夫を検討していきたい。
委員	大分駅からの回遊路として公園が続くが、上野に上がる道や県立芸術文化短期大学に上がる道が寸断されている。安全性についての施策はあるか。
事務局	整備に当たっては、都市計画部局と連携しながら安全面についても考えていく。
委員	歴史資料館について、昨年度の小中学校の利用は全体の何割程度か。
事務局	約43,000人の利用に対して、小中高校生の利用は体験活動を含めて25,000人という実績である。
委員	F U N A I ジュニア検定の受検者数と養成されたジュニアガイドは何人か。また、郷土の歴史や文化を大切に作る心の醸成と人材育成をどのようにやっていくのかを考えた時に、指標は合格者数にするのがよいのか、受検者数にするのがよいのかについて考えを聞きたい。
事務局	今年度は、81名の受検者に対して合格者は4名、昨年度は、140名の受検者に対して合格者は9名、29年度は、143名の受検者に対して合格者は20名という実績である。また、ジュニア検定合格者の中から希望を募り、現在17名のジュニアガイドが活躍している。指標については、多くの子どもたちに受検してもらうことが歴史に関心をもってもらうという部分で大きな意味があると思うので再度検討したい。
委員	やはりもっと受検者を増やすべきではないかと思う。学校としても、まず受検するところから進めていく方がこの目標に近づくのではないかと思

	う。
委員	参加体験型の人権学習とは、アイスブレイク、グループ協議等の一般的な参加体験型なのか。それとも、車いす体験、アイマスクなどを指しているのか。一般市民の方には注釈等がなければ「参加体験型」とは何なのかが分かりにくい。
事務局	参加体験型の人権学習とは、児童生徒が主体的に参加する交流活動や体験活動などを含んだ人権学習と捉えている。
委員	大分市の教育委員会が非常に力を入れているところであるので、「部落差別解消の推進に関する人権学習を受講した児童生徒の割合」を指標にしてもいいのではないかと思う。
事務局	過去の問題として部落問題を認識している生徒も多い。部落差別解消推進法ができたのは現在も部落差別があるからであり、部落問題を現在の問題として認識することが非常に重要だと思っている。教員が現在も続いている差別をなくすためにどうするのかということ子どもたちと一緒に考える力をつけていく、また、子どもたちにもそのような力をつけてもらうという取組を進めていきたい。
委員	ヒューレに行くのは小学校で言えばどの学年が多いか。
事務局	4年生で来る学校が多いと感じる。
委員	4年生が一番多く来るということについてはどう考えているか。理解の度合いやいろいろと体験できるということから考えて、どの学年が適しているというのは特にはないか。
事務局	ヒューレで体験をする場合、その前後にどんな学習をしたのか、事前と事後の学習がどう組み合わせられているのかがとても重要であり、時期はいつでもいいと思っている。
委員	とても素晴らしい施設だと思う。ヒューレでの活動を子どもたちが本当に理解するために、また、前後の学習も含めてより充実した活動になるためには何年生が行くのがいいのか考えるところがあったのでお聞きしたかった。
委員	人権フェスティバルは、「年間を通じた様々なイベント」とあるが、この中に9月にコンパルホールである講演会は含まれているか。
事務局	人権啓発活動は、いろいろな課が行っている。社会教育課の活動としては、6月のパークプレイス、7月、8月、10月のホルトホールである。
委員	参加率を増やすために、地域の方にどのようにお知らせするのか。

事務局	<p>社会教育課の啓発活動については、不特定多数の方に来ていただくものであり、来ていただいた方に対して啓発活動をする活動であるので、商業施設等で行っている。</p>
委員	<p>仕事量はどのように制限するのか。持ち帰り仕事が増えるなどいろいろな問題があるのではないか。</p>
事務局	<p>主担当の学級担任を補助する補助教員、学校図書館支援員、印刷物の事務作業等を行うスクールサポートスタッフ等、これまでは教職員が行ってきた仕事をより多くの専門スタッフで補助するなど、一人当たりの仕事量の縮減を図っている。</p>
委員	<p>いろいろな方を採用して教職員を補助するということが分かった。</p>
委員	<p>教員の年齢構成については、非常に多い世代と少ない世代とがある。現状の教え方をスクラップアンドビルドすることにより、教員への負担が大きくなるのではないか。新規採用については、新卒で本採用になることが増え、不向きだった場合には欠員が出ることになるが、その補充はどのように考えていくのか。定年退職を迎える校長先生も多くなるが、現校長先生が一度にたくさん交代した時には、大分市の学校はどうなるのかと考えると校長先生の定年延長も視野に入れたビジョンが必要ではないか。</p>
事務局	<p>50代の教員が約半数を占めているので、この十年近くの間で約半数の教員が代わっていくという現状がある。ベテランの教職員が持っている高い指導力をいかに次の世代に引き継いでいくかが課題である。教職員研修もそのようなところに力点を置いている。加えて、大分市独自で退職をした校長、教頭、指導力の高い教員を教科指導マイスターとして再雇用している。</p> <p>2点目の教職員の補充については、現状、なかなか定員が確保できていない。これは、県の教育委員会の所管事項だが、本市も人材確保に努めている。</p> <p>3点目の管理職の定年延長については、全国的には、校長の再雇用を取り入れている県もあることから、県の教育委員会に、この制度をいち早く取り入れるよう強く求めているところである。</p>
委員	<p>時間を守るということが前面に立つのではなく、子どもの前に立つ自分たちの健康を維持するために、でき得る限り時間短縮に取り組むことが大事だと職員には常に話している。そのために、7時から学校は電話対応を基本的にしないということで自動音声メッセージを入れていただいたほか、スクールソーシャルワーカーが家庭に入り、保護者の方や我々と連携を図りながら子どもへの支援を行っていくといったマンパワーをいただいている。また、市教委から送られてくるプリント類の配布に際しては、事前にクラスごとに分けてもらっており、学校では配布ボックスの中に入れるだけで済むという、働き方改革に係るそのような取組も市教委や市が行ってくださっているのを感じている。</p>

委員	<p>今、時間外勤務時間が80時間を超えている先生がうちの学校にもいるが、出退勤管理システムの導入により、時間管理について職員の意識が非常に上がってきたのは間違いない。一方で、時間を短くしたけれども教育の質を落とすにはいけないという点でなかなか整理がつかないところもある。人の配置や自動音声メッセージの導入のほか、通知表の電子化など非常に効率化を進めているが、最終的に、最初にしなければいけないのは時間の管理である。その後に、教育の質を落とさないためにはどうするのか話をしていかないとはいけない。学校の中でも努力をしていきたいと思う。</p>
委員	<p>時間の管理についての認識が生じたというのがすごく大きな変化であると思う。総合的な取組を進めていただくと共に、やはり時間管理も大事になってきているという気がする。</p>
委員	<p>保護者の立場として、先生方の働く時間を延ばしている割合として、保護者の要望や子どものことが大変重くのしかかっているであろうということを日々感じている。子どものことになると、なかなか働き方改革ということに理解を示す人が少ないように感じる。そのような中、活動をしていて、これは学校の役割ではないということがたくさんあるように思う。保護者の役割、学校の役割というのをこれから明確にしていくことで先生方の質も守られるのではないかな。PTAの役割として努力していきたい。</p>

(3) その他

○第4回大分市教育ビジョン検討委員会は、11月11日(月)の15:00から開催

(4) 閉会